

東京都における 障害者訓練について

～多様な求職者の特性を踏まえた
きめ細かな職業能力開発の推進～

令和7年3月11日

東京都産業労働局雇用就業部能力開発課

東京都障害者職業能力開発校

1. 東京都の 障害者職業能力開発 の実施体制

目次

1. 東京都の障害者職業能力開発の実施体制	P3
2. 東京都における障害者訓練についての現状	P5
(1) 施設内訓練	・・・ P6
① 東京障害者職業能力開発校	・・・ P6
② 一般校における障害者対象訓練	・・・ P22
・中央・城北職業能力開発センター板橋校	
・城南職業能力開発センター	
・城東職業能力開発センター	
③ 一般校（一般科目）	・・・ P26
(2) 在職者訓練	・・・ P28
3. 東京都が抱える障害者訓練についての課題	P29
(1) 施設内訓練	・・・ P30
① 東京障害者職業能力開発校	・・・ P30
② 一般校（一般科目）	・・・ P31
(2) 在職者訓練	・・・ P32
4. 障害者職業能力開発の在り方（要望）	P33
多様性に対応した障害者職業訓練の方向性	・・・ P34

障害者職業能力開発の実施体制

都立職業能力開発センター等の概要

- 都内を4ブロックに分け、各地域の産業特性に応じた職業訓練を行う14のセンター・校を設置
- 一般の職業能力開発センター等で訓練を受けることが困難な身体障害者、知的障害者、精神障害者及び発達障害者に対し、国立都営の障害者職業能力開発校を設置
- 軽度の知的障害者向けの訓練「実務作業科」を中央・城北職業能力開発センター板橋校、城南職業能力開発センター、城東職業能力開発センターに設置



<職業能力開発センター等の設置状況>
(2024年7月1日現在)

東京障害者職業能力開発校

2. 東京都における 障害者訓練 についての現状

施設概要

国立・都営 東京障害者職業能力開発校

所在地

東京都小平市小川西町2丁目34番1号

新宿駅よりJR中央線特別快速、
西武国分寺線乗換、約40分
(最寄駅 小川駅 徒歩5分)

昭和23年8月 創立

平成30年4月

新校舎での訓練開始

【国有財産】

- ・ 本館
- ・ 寮棟
- ・ ホール棟
- ・ 新ものづくり実習棟
- ・ 体育館
- ・ その他（倉庫等）

【都有財産】

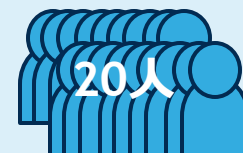
- ・ 実務作業科実習棟
- ・ その他（倉庫等）



ホール棟

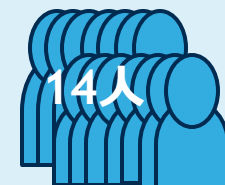
職業訓練指導員

生徒の訓練の指導を実施



生活指導相談員（会計年度任用職員）

職業訓練指導員等と連携し、生徒の精神面・身体機能・生活歴などを踏まえて精神面のフォローを行うほか、訓練生活に関する相談や助言を実施



職場定着支援員（会計年度任用職員）

キャリアコンサルタント、精神保健福祉士の有資格などが精神障害を持つ訓練生等の職場定着の支援を実施



障害者就職支援推進員（会計年度任用職員）

障害者に対する職業訓練の知見を有する者が生徒の職業相談、求職活動への助言、求人相談などを実施



健康管理専門員（会計年度任用職員）

看護師が生徒の日々の健康管理を実施



寮の概要

- 平成30年 寮棟新築
- 通校が困難な身体障害者の方を入寮対象としている
- 舎監は平日夜間と土日で2名を配置（原則、ローテーション） ※現在は全員男性
- 食事の提供なし（簡易な調理設備を設置。近隣に弁当屋、コンビニ等の店舗あり）

令和5年度	入寮対象	受講者数	うち身体	入寮者数
	身体のみ	105	49	3

寮館（個室）



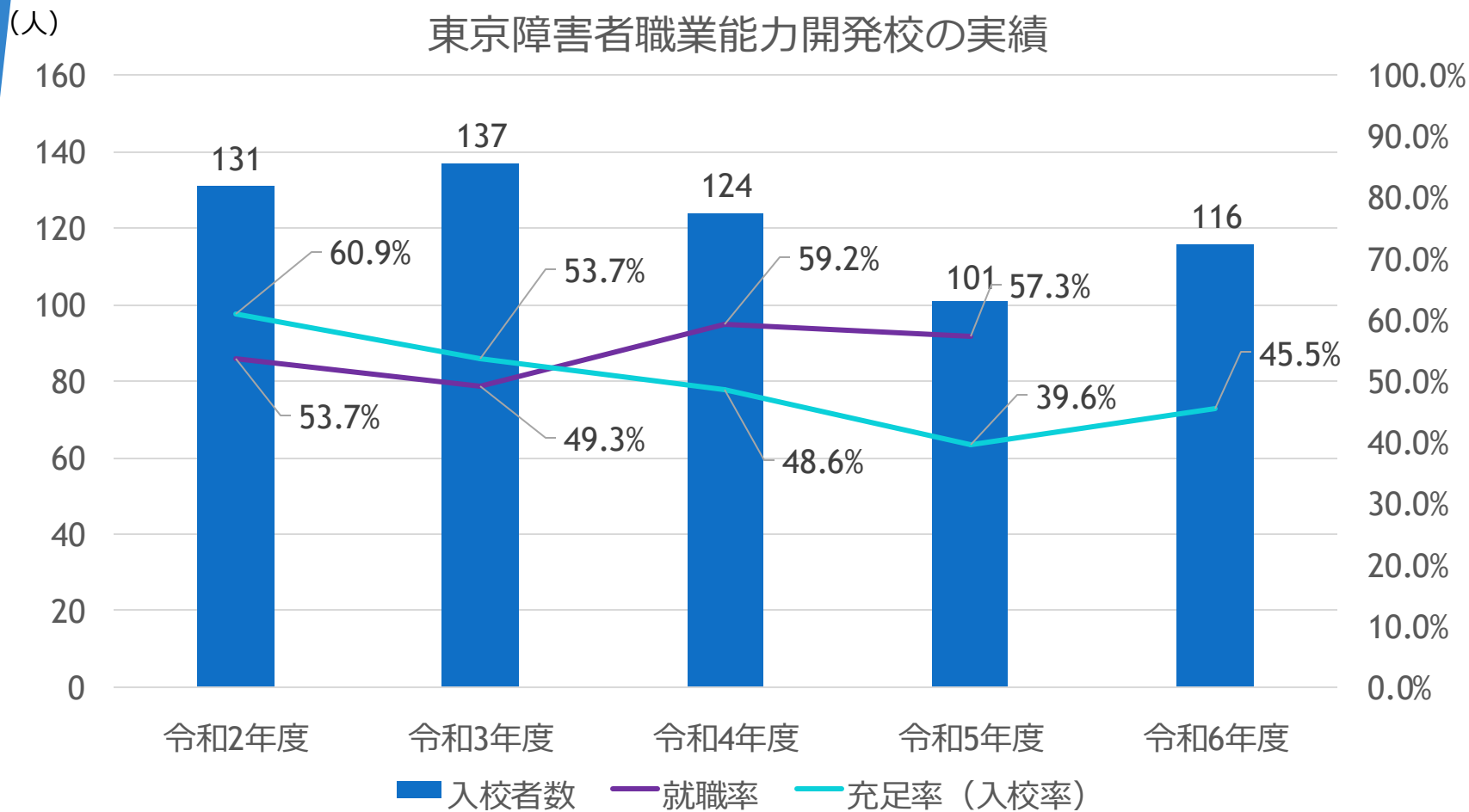
寮の談話室



3か月訓練 科目名	定員	訓練 時限	応募対象	入校月
就業支援科	10	300	身体・精神・発達	4月、7月、10月、1月

6か月訓練 科目名	定員	訓練 時限	応募対象	入校月
調理・清掃サービス科	10	760	身体・精神・発達	4月、7月、10月、1月
オフィスワーク科	10	760	身体・精神・発達	4月、7月、10月、1月
職域開発科	10	680	精神・発達	4月、7月、10月、1月

1年訓練 科目名	定員	訓練 時限	応募対象	入校月
ビジネスアプリ開発科	10	1,560	身体・精神・発達	4月
ビジネス総合事務科	10	1,560	身体・精神・発達	4月
グラフィックDTP科	15	1,560	身体・精神・発達	4月
ものづくり技術科	10	1,560	身体・精神・発達	4月
建築CAD科	10	1,560	身体・精神・発達	4月
製パン科	10	1,560	身体・精神・発達	4月
実務作業科	30	1,600	知的	4月
OA実務科 (特別委託訓練)	5	1,400	重度視覚障害者	4月



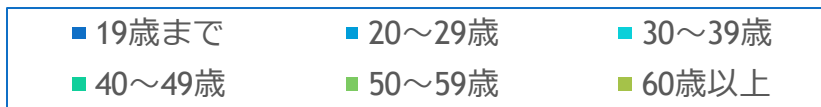
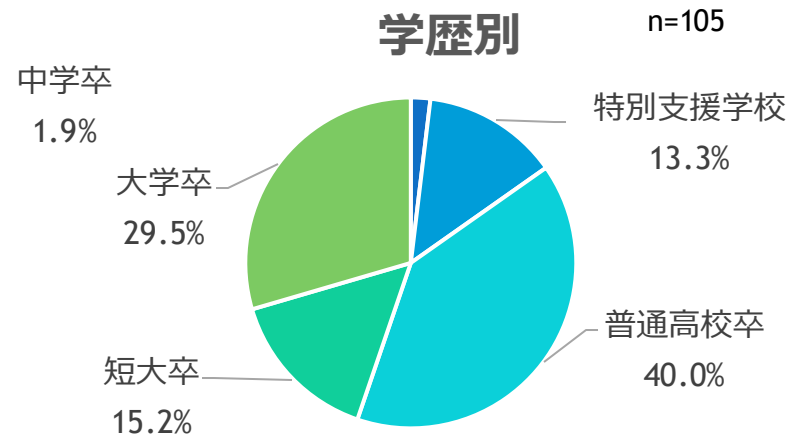
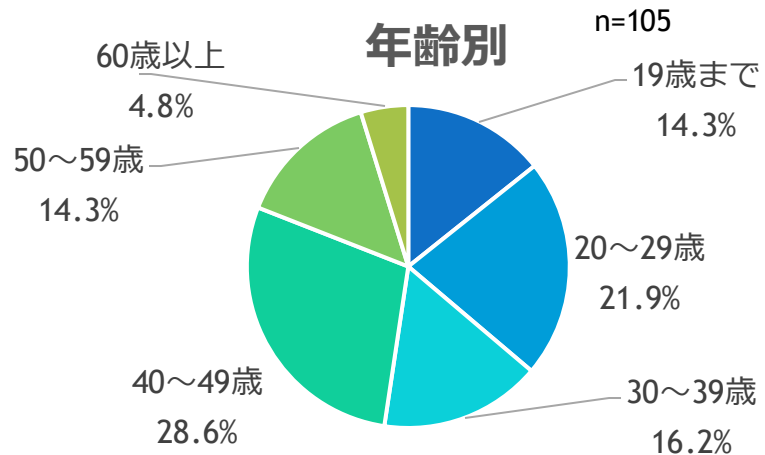
資料：東京障害者職業能力開発校（2021-2024）「事業概要 令和3年版から令和6年版」より作成
令和6年度については東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成（各年度ともO A実務科を除く）
なお、東京都と国において就職率の算定方法が異なる。本グラフは国の算定方法に基づいて策定しているため、東京都の公表数値とは異なる値となっている。

参考：東京都公表数値（就職率）

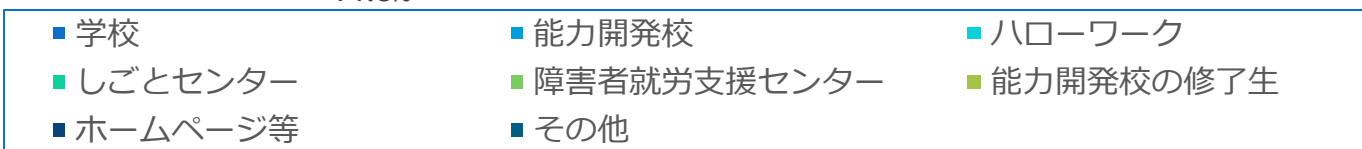
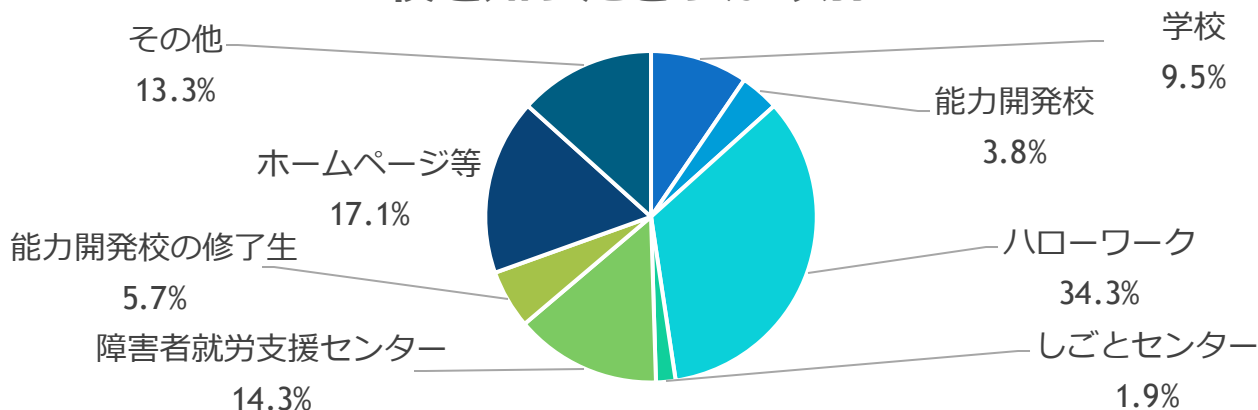
【令和2年度：73.3%、令和3年度：74.0%、令和4年度：76.9%、令和5年度：83.6%】

(1) 施設内訓練 ①東京障害者職業能力開発校

入校時の属性別内訳（令和5年度）

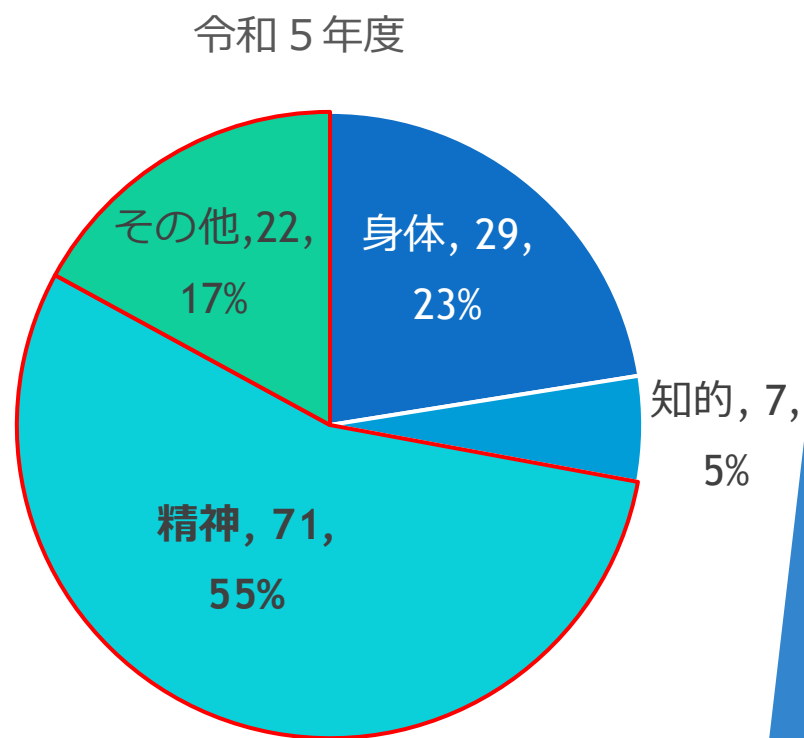
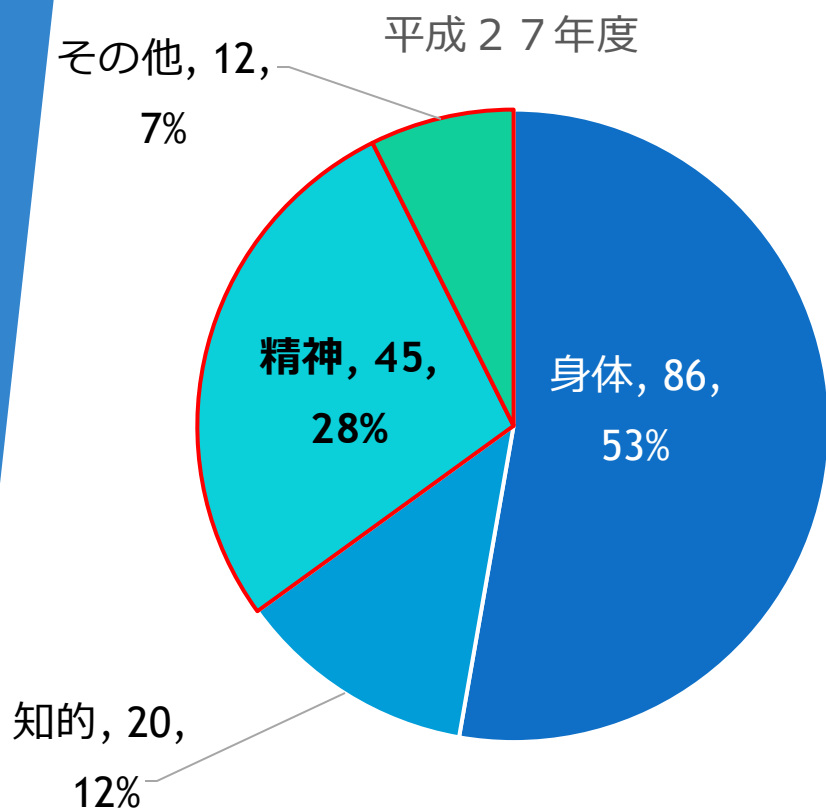


校を知ったきっかけ別 n=105



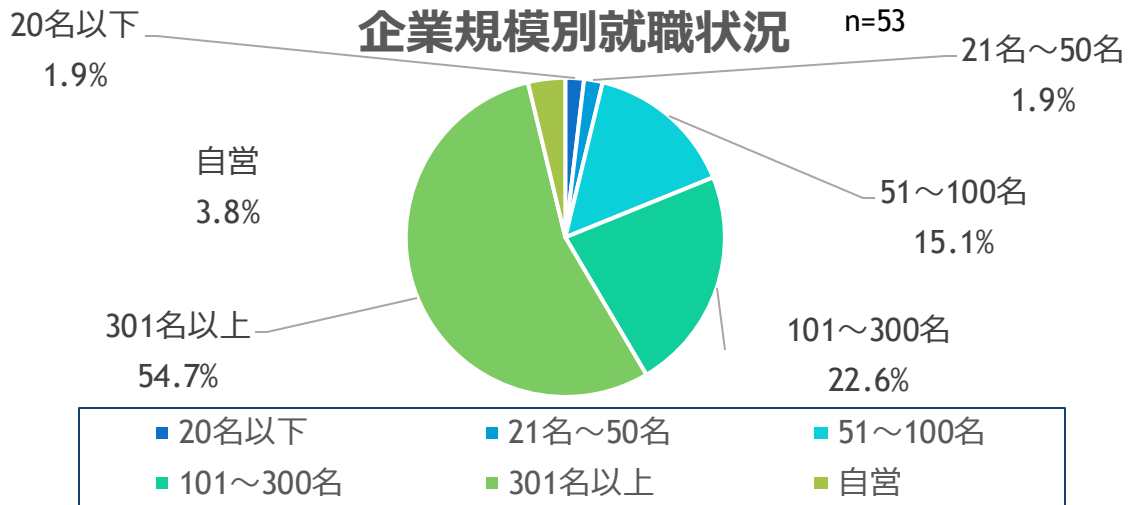
入校時の障害種別（平成27年度、令和5年度）

- 障害者訓練の受講者について障害者種別に平成27年度と令和5年度を比較すると、身体及び知的の構成比が低下（身体：53%⇒23%、知的：12%⇒5%）
- 一方、精神、その他の構成比は上昇（精神：28%⇒55%、その他7%⇒17%）



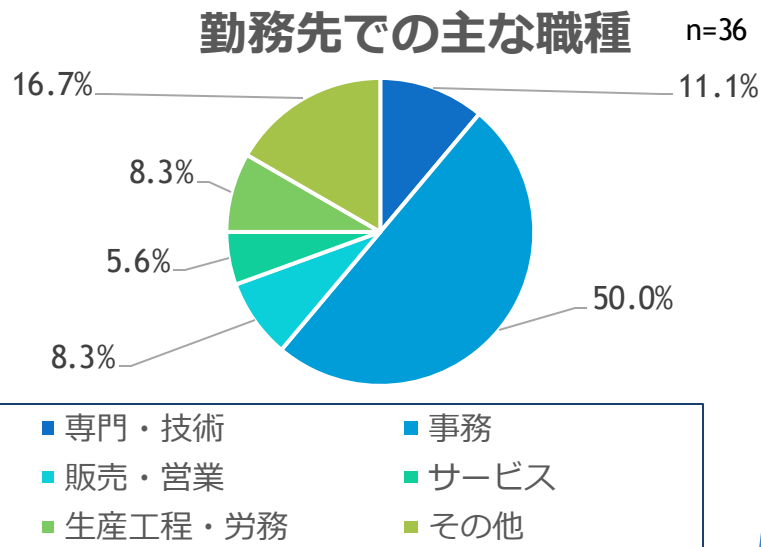
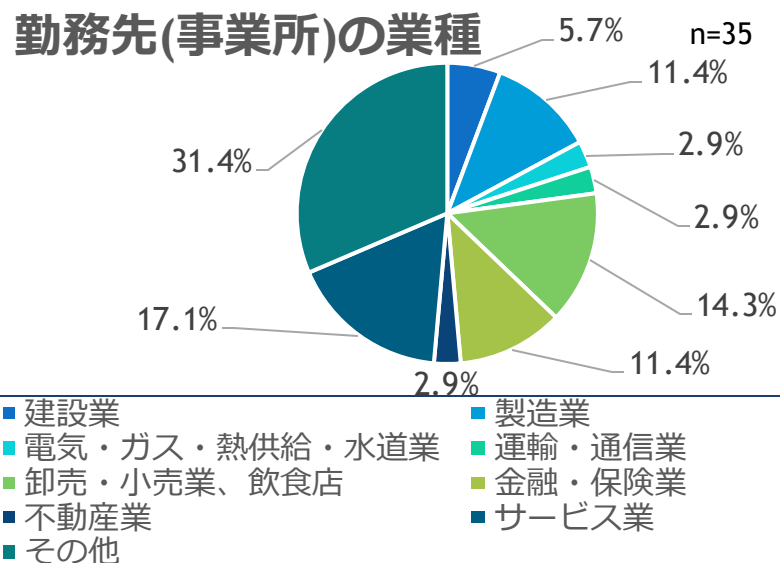
(1) 施設内訓練 ①東京障害者職業能力開発校

修了時・就職時の属性別内訳（令和5年度）



資料：東京障害者職業能力開発校（2024）「事業概要 令和6年版」より作成

【参考】勤務先（事業所）の業種と主な職種（令和4年度）



資料：東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

(1) 施設内訓練

①東京障害者職業能力開発校

主な取組事例 – 訓練生確保等に向けた取組① –

- 入校検討者に校見学会（毎週3回）、科目毎に体験入校（年2回）を実施
- ハローワーク職員を校へ招き、校見学と意見交換（年4回）を実施
- 都福祉局や都内各障害者就業・生活支援センターが主催する会議体での応募の周知
- 大学キャリアセンター訪問や同センター主催の相談会に参加
- 医療機関（精神科デイケア等）へ出向いての校PR。医療機関職員を招いての校見学

JEED『働く広場』2024年7月号 編集委員が行く

X（旧Twitter）



『職業能力開発校における
発達障害者と精神障害者へ
の職業訓練』

東京障害者職業能力開発校
を特集で紹介



HPやX（旧Twitter）等で校の情報を発信

主な取組事例 – 訓練生確保等に向けた取組② –

キャリア・コンパス・センターでのPR

施設概要

東京都立中央・城北職業能力開発センター しごとセンター校10階～12階に併設された簡易的な訓練体験（VRゴーグルでの疑似体験を含む）やセミナー等を通じて、都が実施する職業訓練の魅力を発信する“**情報発信拠点**”

令和6年7月開設 来場者数 846人
(令和6年7月～令和7年1月)

各訓練校のPR

- ・ キャリア・コンパス・センターの10階PRブースには、東京障害者職業能力開発校を含む 都内14校の学校案内VR動画を配置
- ・ 学校案内VR動画では、学校の外観や訓練風景を収録し、疑似的に学校見学が可能



10階PRブース



VRゴーグルでの体験



学校案内VR動画（訓練風景）

主な取組事例 ー個別対応に向けた取組① <連続入校> ー

- 職業準備性に課題のある生徒の受け入れ先として平成27年度に就業支援事務科（現在の「就業支援科」）を立ち上げ、**連続入校の仕組みを構築**
- 社会生活技能実習と適応実習**を通じて連続入校をスムーズに誘導
- 就業支援科で蓄積した**生徒情報を接続先に共有**

入校条件：就業支援科の適応実習における本人適性と面接

平成27年度：連続入校の仕組みを開始

平成30年度：就業支援科に名称変更し、接続先を拡充

接続科目(6か月)

(3か月)

就業支援科

オフィスワーク科

調理・清掃サービス科

働きたいけど・・・
対人関係が苦手・・・
続けられるか・・・



オフィスワーク科と調理・清掃サービス科
直近3か年分（R3～R5）の就職実績

就業支援科からの 連続入校者 の就職率	73%
一般選考(直接入校)の就職率	68%

連続入校先の拡大（令和7年度開始）

- 東京障害者職業能力開発校では、精神・発達障害者の割合が増加傾向であり、訓練生の適性を踏まえたより丁寧な対応が必要
- これまでの就業支援科の連続入校先に職域開発科を加えることで、訓練生が安心して受講できる訓練メニューを提供

障害者訓練のリニューアル（就業支援科）

就業支援科

【訓練期間】3か月（4月、7月、10月、1月入校）

【対象・定員】・精神・発達・身体障害者の方
・10名×4期＝40名

【訓練の特徴】

- ・訓練受講が不安な方を対象とした導入訓練
入校選考は面接
- ・初期・中期・後期に分け、徐々に訓練時間を延長
- ・事務・調理・清掃・**物流**作業の基本と社会生活技能実習を実施

職域開発科

【訓練期間】6か月（4月、7月、10月、1月入校）

【対象・定員】・精神・発達障害者の方
・10名×4期＝40名

【訓練の特徴】

- ・社会適応訓練やコース選択制などの個別カリキュラム
- ・勤務形態や障害特性に配慮した短時間訓練
- ・訓練、就職、職場定着までの一貫した支援

訓練のイメージ



これまでの基本的な事務・調理・清掃に物流作業を追加

(3か月)

就業支援科

連続入校



接続科目（6か月）

オフィスワーク科

調理・清掃サービス科

職域開発科

主な取組事例 ー個別対応に向けた取組② <支援員等の配置と職場定着> ー

- 各科目に**生活指導相談員を配置**、訓練前や必要の都度面談を実施することにより、指導のきっかけを作る
 - 委嘱の精神科医の助言に基づく家族や主治医との連携
 - 各科目に**就職支援担当を配置**することにより、高水準の就職率を図ることが可能、合わせて定着率の向上も図る
 - ・令和5年度就職率：**57.3%**（厚労省報告ベース）
 - ・訓練時の状況や生活環境など蓄積した生徒情報に基づく個別マッチングを実施
- 1年後の定着率：75.8%**

◆就職1年後の定着率

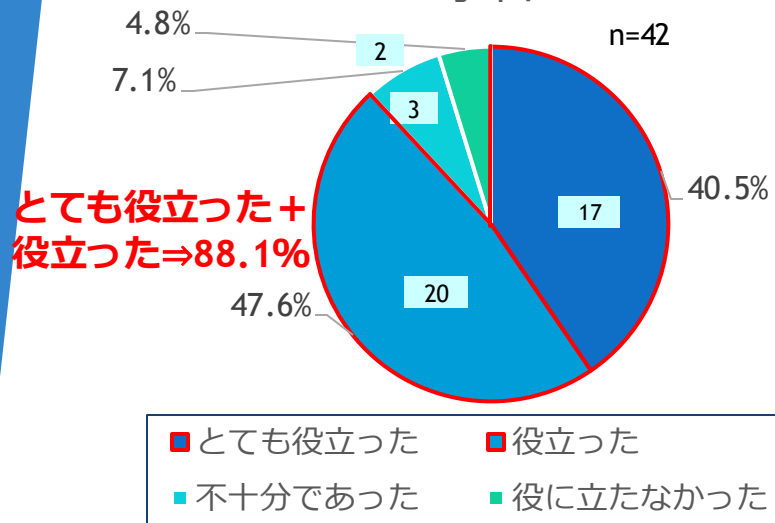
	全体	精神	身体	知的
調査対象者数	73	49	17	7
有効回答数①	62	39	16	7
有効回答数のうち在職中②	47	27	14	6
定着率（①／②）	75.8%	69.2%	87.5%	85.7%

調査対象者：令和4年5月2日から令和5年5月1日までの間に就職した修了生等
令和6年5月1日現在の在職・退職状況より作成 東京障害者職業能力開発校

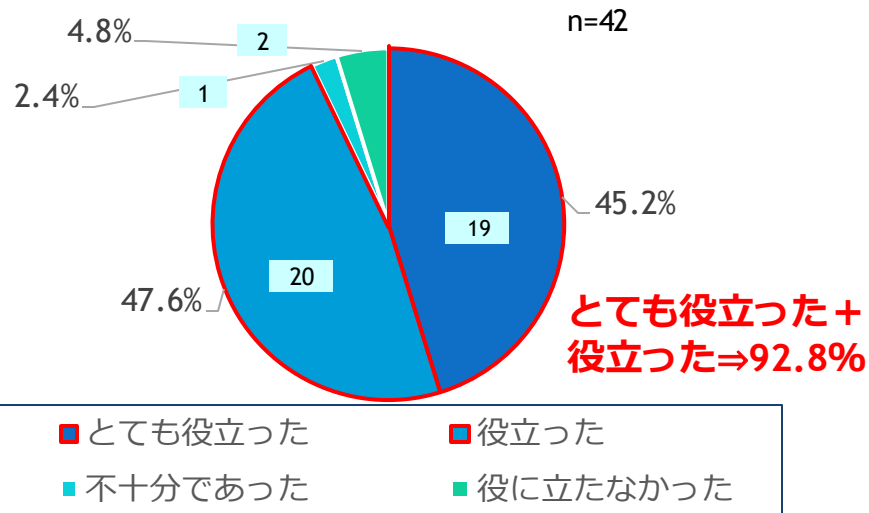
(1) 施設内訓練 ①東京障害者職業能力開発校

修了生の満足度（令和4年度修了生）

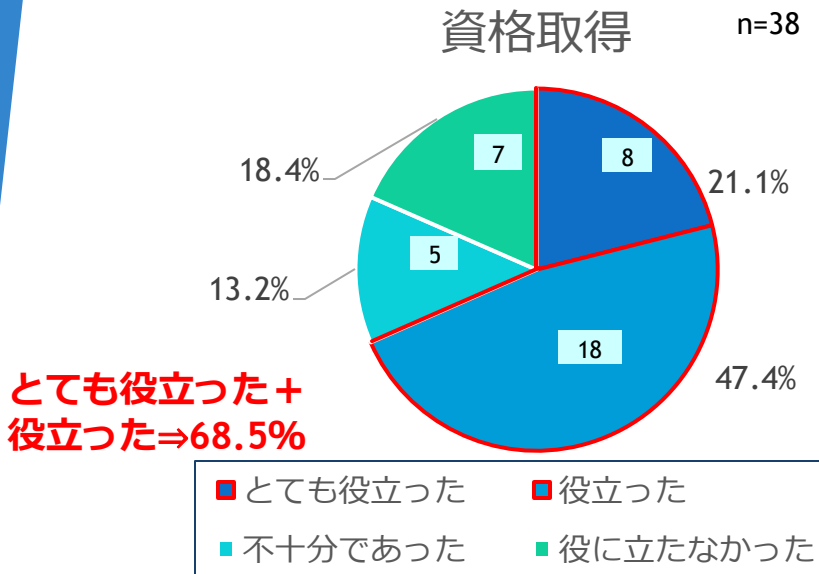
学科



実技



資格取得



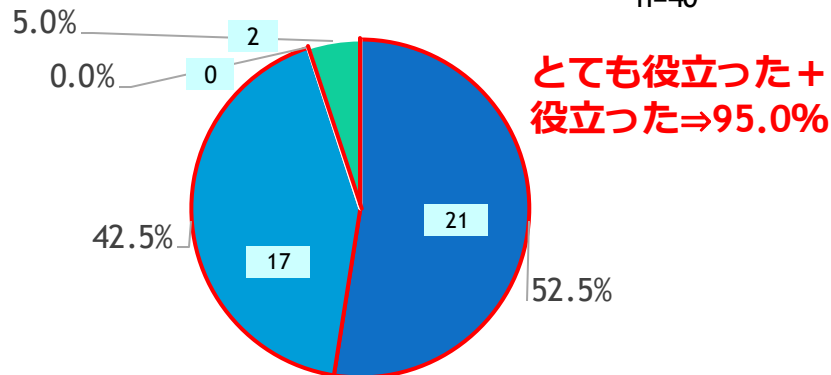
令和4年度に都立職業能力開発センター及び東京障害者職業能力開発校の能力開発訓練を修了した者（ただし、6ヶ月に満たない訓練期間の職業訓練修了生を除く）に対し1年後にアンケートを実施。東京障害者職業能力開発校のみを抜粋。無回答を除いて集計結果を表示。

(1) 施設内訓練 ①東京障害者職業能力開発校

修了生の満足度（令和4年度修了生）

求人情報の提供や就職相談

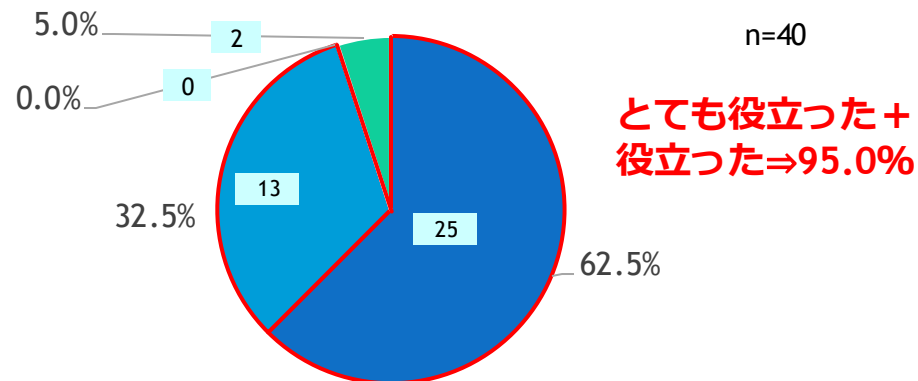
n=40



■ とても役立った ■ 役立った
■ 不十分であった ■ 役に立たなかった

求職活動や会社訪問・面接の方法

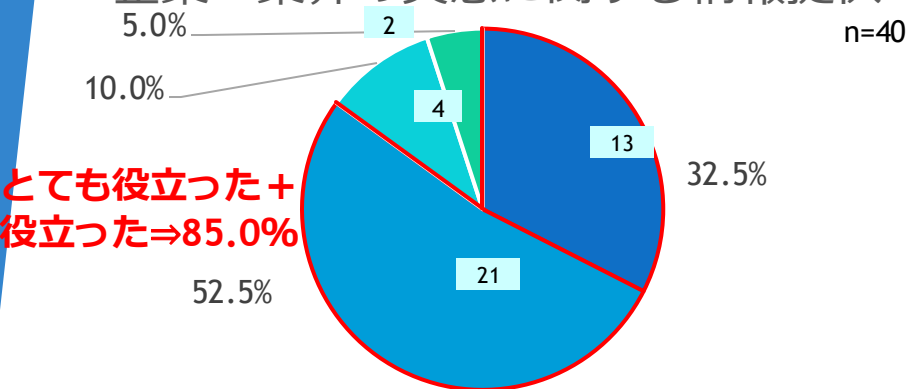
n=40



■ とても役立った ■ 役立った
■ 不十分であった ■ 役に立たなかった

企業・業界の実態に関する情報提供

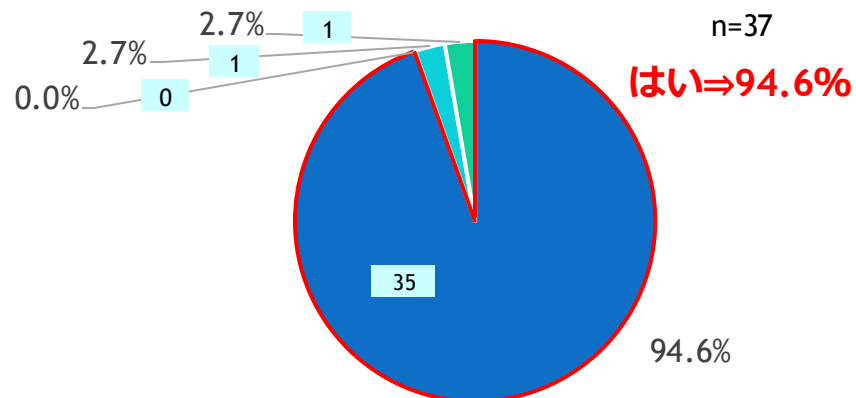
n=40



■ とても役立った ■ 役立った
■ 不十分であった ■ 役に立たなかった

開発校での生活経験は役立っている

n=37



■ はい ■ いいえ ■ どちらともいえない ■ わからない

主な取組事例 — 障害者向け訓練環境の充実・強化 —

- 身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害者など多様な障害特性等に応じたきめ細かな職業訓練を展開
- **音声認識技術を用いて声を文字化する機器やアプリケーションなど、先端技術を活用した障害者をサポートする機器を新たに導入するなど、受講環境を整備**

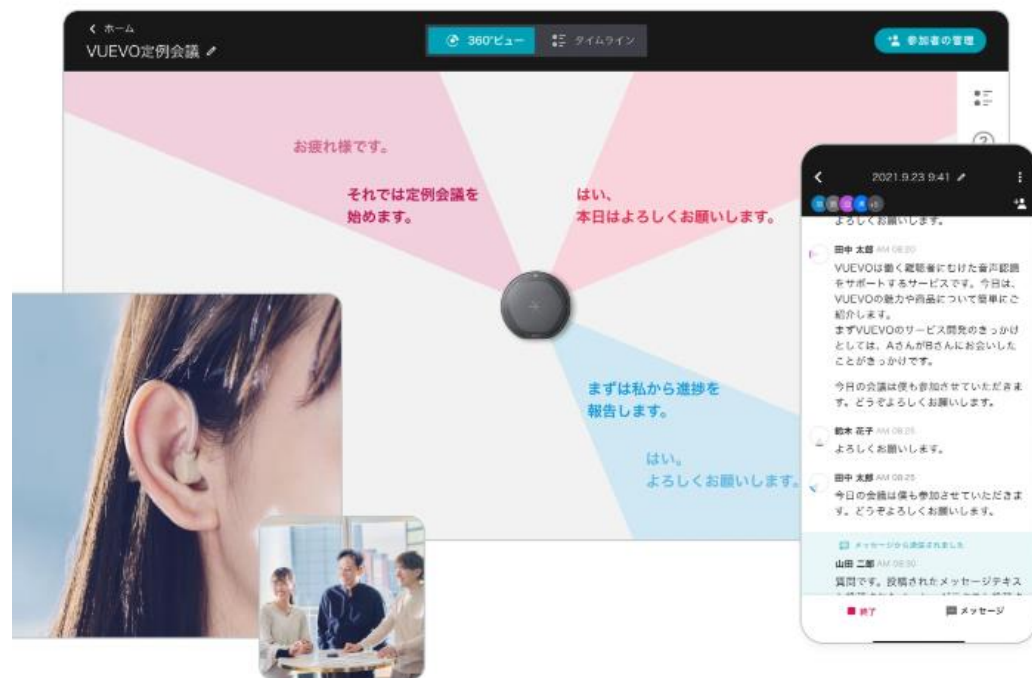
「誰が」「何を」話したかが直感的にわかる



グループでの話し合いをリアルタイムに視覚化



コミュニケーションが活性化し訓練効果が高まる



●中央・城北職業能力開発センター板橋校

訓練科目:実務作業科 短期課程1年

	募集定員 ①	応募者数 ②	入校者数 ③	修了者数 ④	就職者数 ⑤	うち		就職率 ⑧
						修了者⑥	中途退校者⑦	
令和2年度	20	22	14	7	13	6	7	93%
令和3年度	20	20	11	5	8	5	3	100%
令和4年度	20	13	7	1	7	1	6	100%
令和5年度	20	9	3	2	3	2	1	100%
令和6年度	20	16	12	-	-	-	-	-

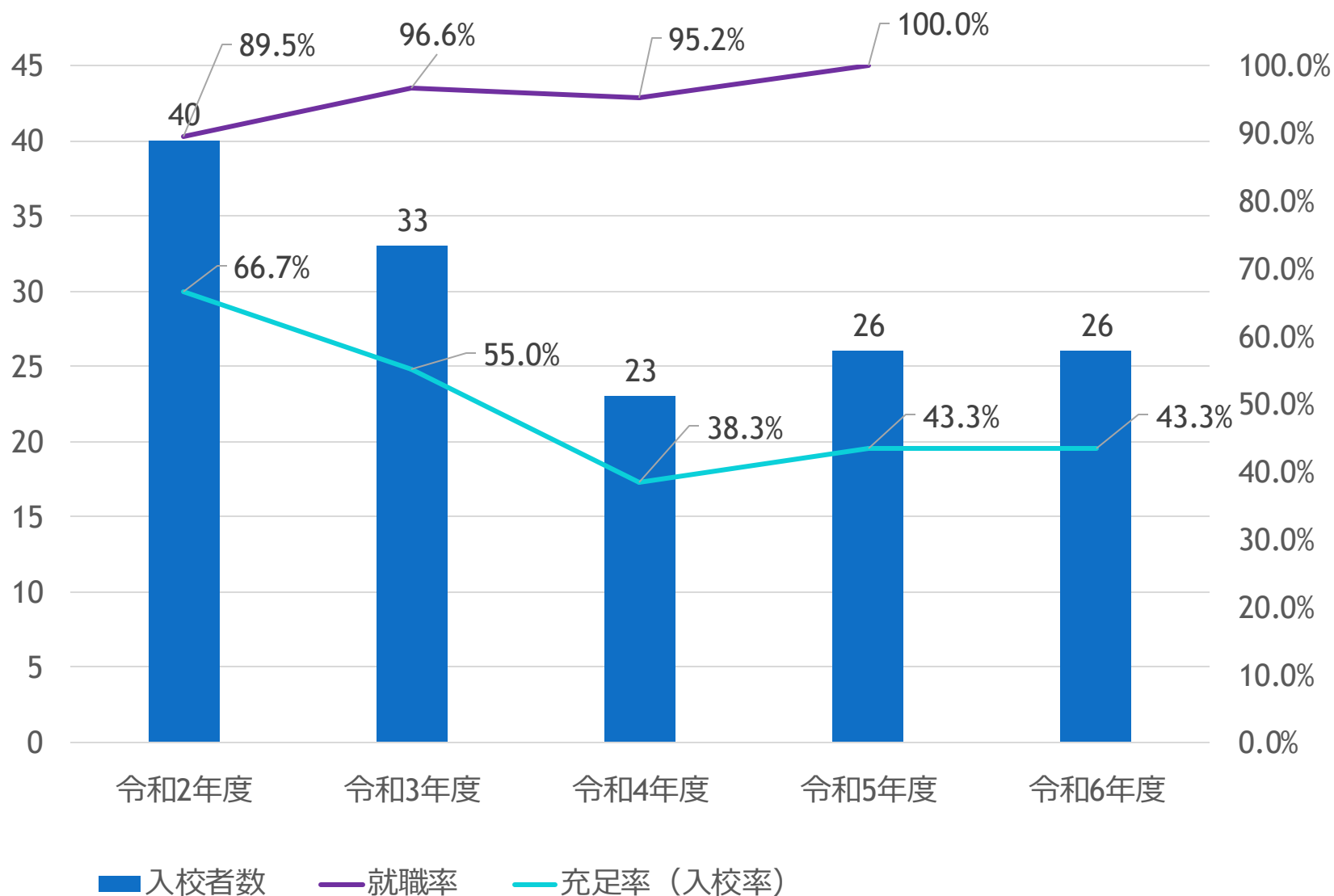
●城南職業能力開発センター

	募集定員 ①	応募者数 ②	入校者数 ③	修了者数 ④	就職者数 ⑤	うち		就職率 ⑧
						修了者⑥	中途退校者⑦	
令和2年度	20	21	18	6	13	3	10	81%
令和3年度	20	18	16	8	14	7	7	93%
令和4年度	20	14	10	7	7	6	1	88%
令和5年度	20	17	16	8	14	8	6	100%
令和6年度	20	16	12	-	-	-	-	-

●城東職業能力開発センター

	募集定員 ①	応募者数 ②	入校者数 ③	修了者数 ④	就職者数 ⑤	うち		就職率 ⑧
						修了者⑥	中途退校者⑦	
令和2年度	20	14	8	6	8	6	2	100%
令和3年度	20	15	6	2	6	2	4	100%
令和4年度	20	10	6	3	6	3	3	100%
令和5年度	20	8	7	5	5	5	0	100%
令和6年度	20	4	2	-	-	-	-	-

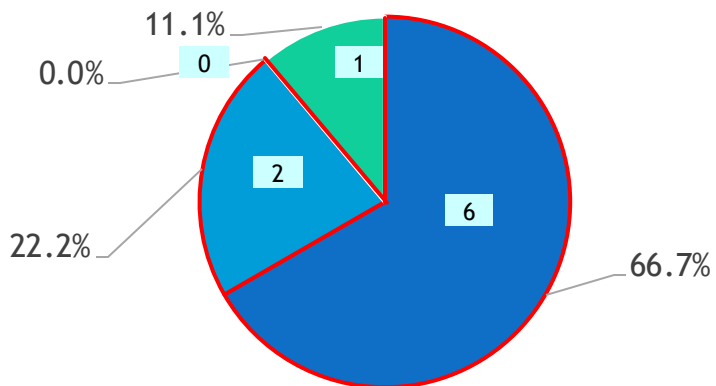
一般校（板橋校、城南・城東3校）の実績（実務作業科）



資料：都立中央・城北職業能力開発センター板橋校、都立城北職業能力開発センター、都立城東職業能力開発センター（2021-2024）
「事業概要 令和3年版から令和6年版」より作成、令和6年度については東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

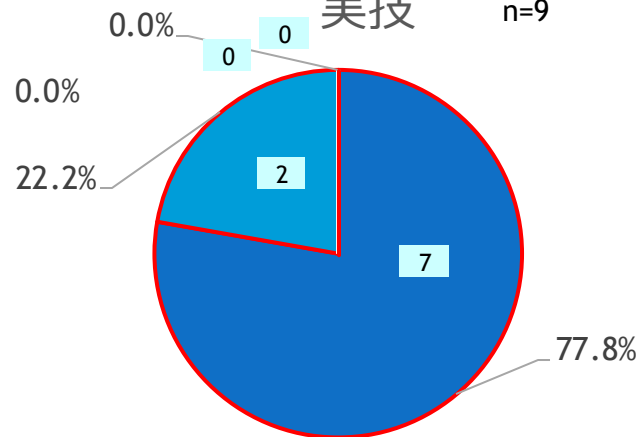
修了生の満足度 (令和4年度修了生)

学科 n=9



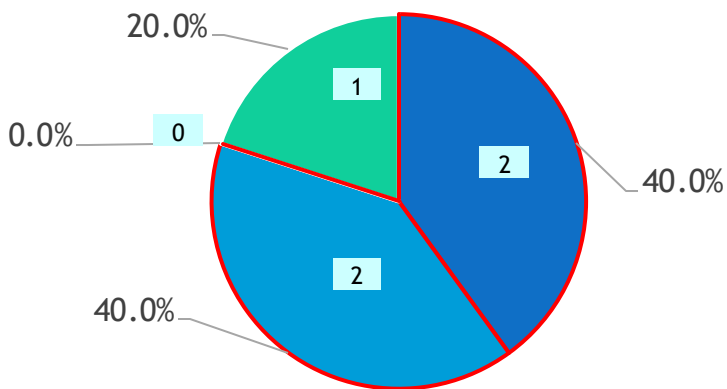
- とても役立った
- 役立った
- 不十分であった
- 役に立たなかった

実技 n=9



- とても役立った
- 役立った
- 不十分であった
- 役に立たなかった

資格取得 n=5

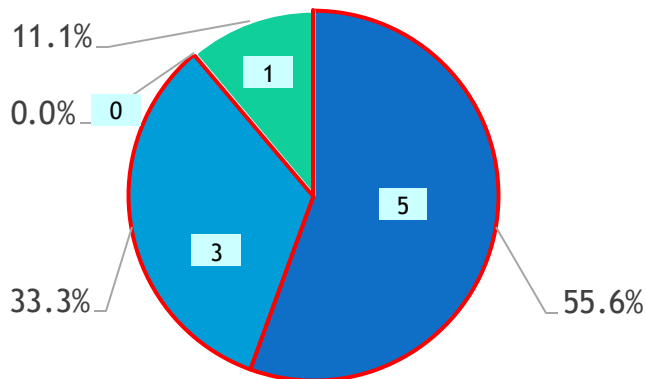


- とても役立った
- 役立った
- 不十分であった
- 役に立たなかった

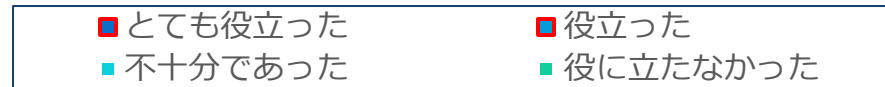
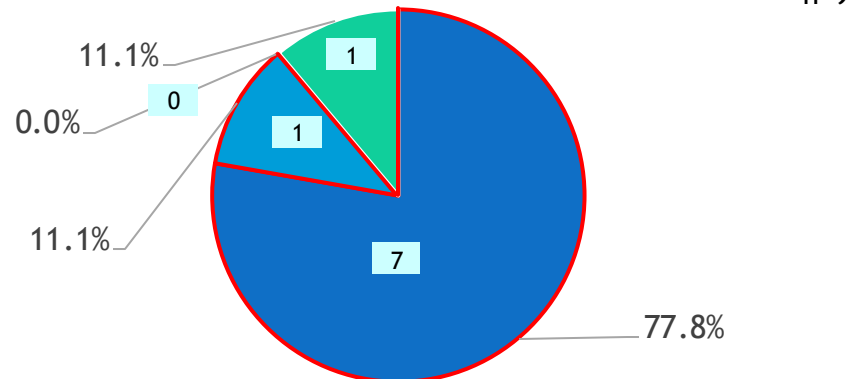
令和4年度に都立職業能力開発センター及び東京障害者職業能力開発校の能力開発訓練を修了した者(ただし、6ヶ月に満たない訓練期間の職業訓練修了生を除く)に対し実施。一般校(実務作業科)のみを抜粋。無回答を除いて集計結果を表示。

修了生の満足度 (令和4年度修了生)

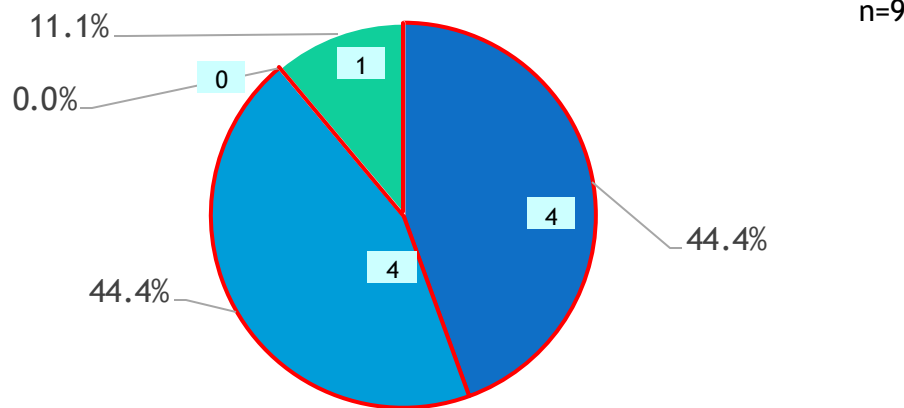
求人情報の提供や就職相談 n=9



求職活動や会社訪問・面接の方法 n=9



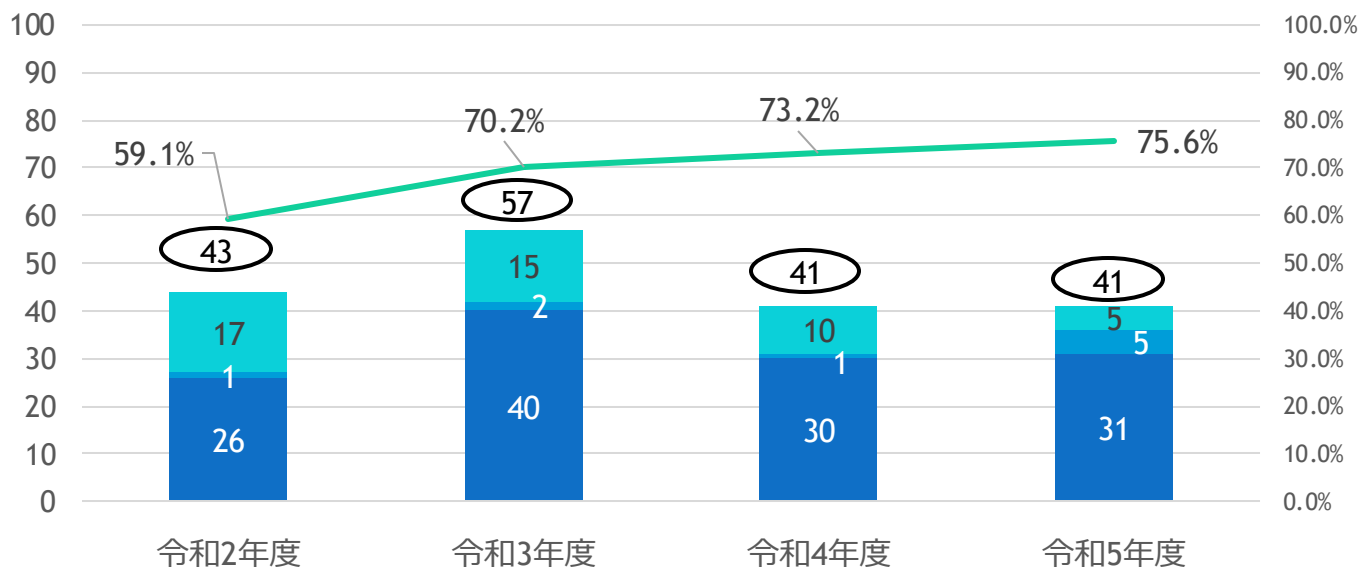
企業・業界の実態に関する情報提供 n=9



一般科目への障害者の入校について

○一般科目へ入校する障害者の約7割が精神・発達障害者（入校時報告）

一般科目における配慮を要する訓練生の数と精神・発達障害者の割合



■ 身体障害者 ■ 知的障害者 ■ 精神・発達障害者 — 配慮を要する訓練生のうち、知的、精神・発達障害者の割合

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
精神・発達障害者	26	40	30	31	33
知的障害者	1	2	1	5	3
身体障害者	17	15	10	5	5
合計	44	57	41	41	41

※令和6年度は10月入校まで。令和2年度の合計値は重複を含むため実人数は43人

資料：東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

(1) 施設内訓練 ③一般校（一般科目）

訓練運営アドバイザーの設置

- 専門的な知識及び経験を有する者の中から訓練運営アドバイザーとして委嘱、訓練生のメンタル面を含めた訓練生活をサポート（精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士、社会福祉士等の有資格者）
- 精神・発達障害等に関する専門的な知見から助言及び援助等を行う（訓練現場の巡回・生徒観察、指導員への報告・助言、生徒との面談等）
- 各センター・校に原則週1回配置（定数15名）
- 相談件数は増加傾向、障害が疑われる生徒等の相談も多い

◆訓練運営アドバイザーの相談実績（月毎の数字を集計）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
相談人数	668	883	969	940	591
うち精神、発達障害者	226	↑ 277	↑ 279	↑ 330	192
相談件数	835	1,203	1,186	1,261	720

※令和6年度は9月末まで

資料：東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

【相談事例】

- ・授業についていけないこと
- ・訓練や就職への不安
- ・クラス内の人間関係トラブル

(2) 在職者訓練

東京都における障害者向け在職者訓練に係る概要と実績

- 各講習3日間（24時限）で実施
- 土曜日（9：40～17：00）に開催
- 定員を超える応募があった場合は抽選により受講者を決定

科目一覧（R6）

科目名	実施時期
Excel活用【初級】	1回目 6月 2回目 11月
Excel活用【中級】	7月
PowerPointによるプレゼンテーション【初級】	8月～9月
Excel（VBA）	10月～11月

R2～R6 実績

年度	科目数	定員	応募者	受講者	修了者
R2	4	25	44	25	22
R3	5	47	92	47	35
R4	5	50	86	49	39
R5	5	50	85	47	40
R6	5	50	106	46	38

資料：東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

- 毎年度、全講習とも定員を超える応募がある
- 身体障害者よりも精神障害者の受講が多い
- 修了時のアンケートの結果
 - ・ 講習の感想（仕事に役立つか）
 - R5 参考になった68.3%、ある程度参考になった26.8%
 - R6 参考になった79.4%、ある程度参考になった20.6%
 - ・ 障害特性に合わせた丁寧な対応については好評
 - ・ 講習の種類（Word、Excelのレベル等）や定員数、授業時限数について増要望
 - ・ 授業の進め方のご要望等積極的な意見多数

東京都障害者職業能力開発校

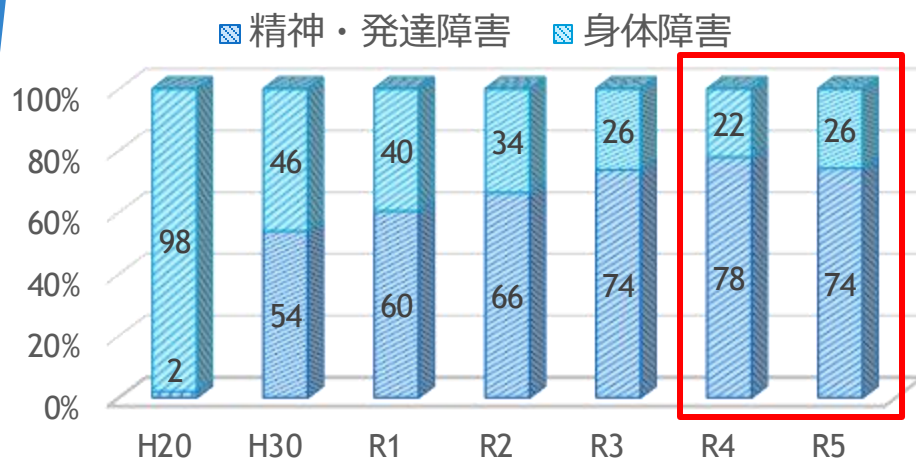
3. 東京都が抱える 障害者訓練 についての課題

(1) 施設内訓練 ①東京障害者職業能力開発校

入校者における精神・発達障害者割合の増加

- 東京障害者職業能力開発校の入校者について、**精神・発達障害者の割合が増加**
- 1年コースでは従前が身体障害者を対象とした「集合訓練型の職業訓練」が中心であり、運営に支障をきたしている
- 複数の種類の障害を併せ持つ生徒が増加、個別対応が必要
- 現状に運営が追い付いていない（ミスマッチ）ため、入校率の低迷につながっている
- **精神・発達障害のうち2種類以上の病名を重複して持つ障害者も多く**、よりきめ細やかに個々の障害特性を見極められる訓練が必要

精神・発達障害者の割合（%）



精神・発達障害のうち病名が重複数

■ 1種類 ■ 2種類 ■ 3種類以上



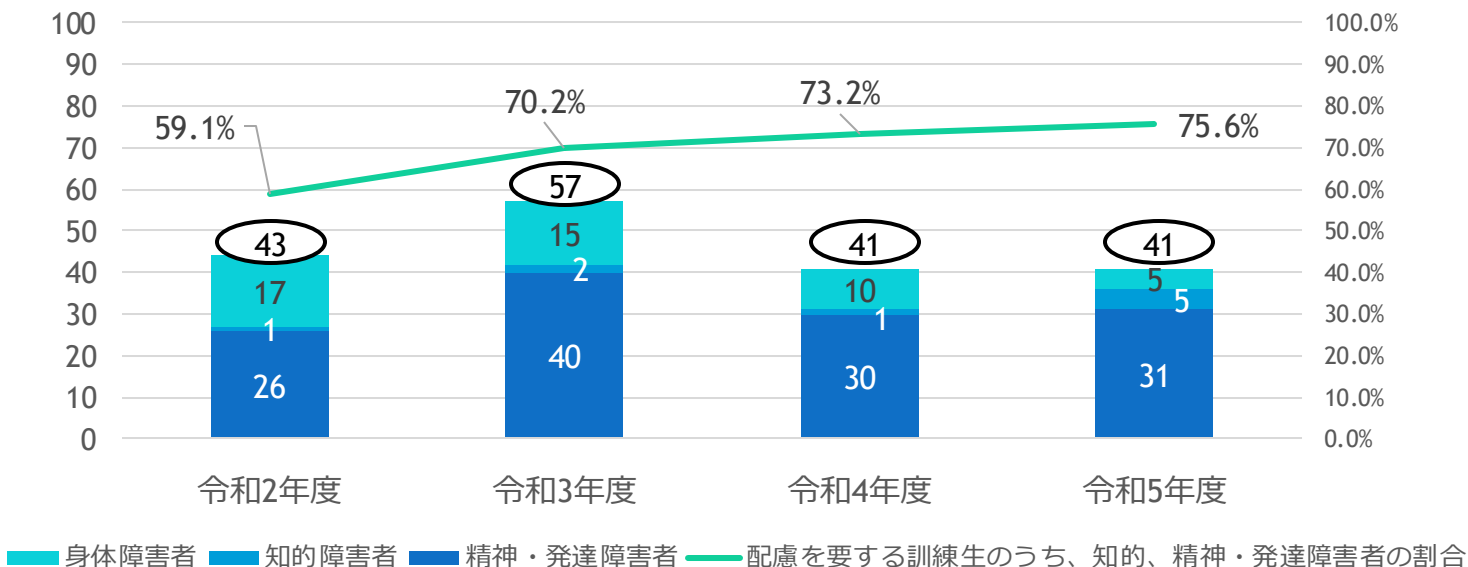
※実務作業科（知的障害）、O A実務科は除く、入校願書より作成

配慮を要する生徒の増加に伴う対応

○配慮を要する生徒の増加に伴い、当該生徒への対応のみならず、クラス運営上の支障も生じるなど現場の負担が増加

○配慮を要する生徒のうち、身体障害者の割合は減少、精神・発達障害者の割合は増加

一般科目における配慮を要する生徒の数と
精神・発達障害者の割合（再掲）



○ 配慮を要する訓練生数、令和2年度のみ重複障害者の在席があり、グラフの数値と合計が異なる

資料：東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

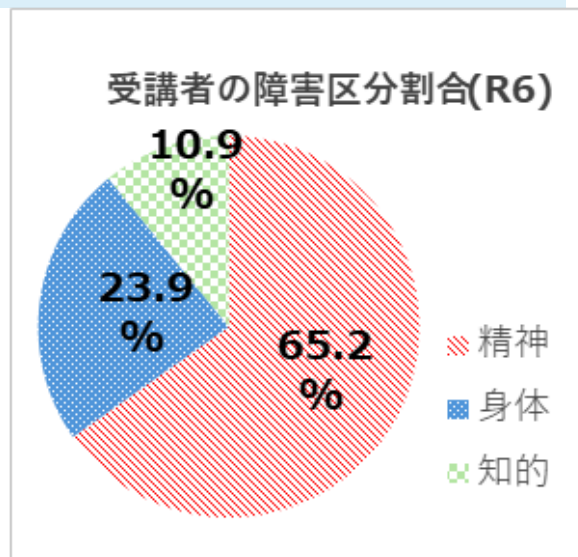
(2) 在職者訓練

在職者訓練における課題

- 求職者訓練の施設を活用し、土曜日に実施しているが、現状の体制では5科目以上の実施や各科目における定員数の増加は難しい
- 障害に合わせた配慮を行うには、個人指導に近い体制で実施が必要
 - ・聴覚障害者に対する手話通訳の配置
 - ・集合型の講座のため、受講者全員の障害種別に配慮した講座の実施は難しい
- 多摩地域の東京障害者職業能力開発校のみで実施

受講者別人数 (R6)

講習名	人数
Excel(VBA)	10
Excel活用【初級】(第1回)	10
Excel活用【初級】(第2回)	8
Excel活用【中級】	10
PowerPointによるプレゼンテーション【初級】	8
計	46



資料：東京都産業労働局雇用就業部能力開発課にて作成

【特徴】

- ・手話通訳の配置
- ・座席配置など、あらかじめ訓練生の要望を確認し、可能な範囲で配慮

東京障害者職業能力開発校

4. 障害者職業能力開発 の在り方（要望）

○多様性に対応した障害者職業訓練の方向性

(1) 障害者訓練のあり方について

- ①精神・発達障害者の割合が増加傾向の中、今後はよりきめ細かな対応が必要
- ②専門性だけでなく、職業準備性も含めた訓練の方向性の検討
- ③これまでの集合型の訓練のあり方を検討する必要

(2) 訓練の実施体制について

- ①障害者校に限らず一般校（一般科目）も含めた実施体制や配置基準等の検討
- ②指導員の指導スキル向上に向けた指導員の研修・フォローアップ体制の構築